

講演会型＋在宅取組型（幼稚園）

学校名等	高山幼稚園
実施日時	平成28年10月27日 14:00～15:15
会場	高山幼稚園体育室・自宅
参加人数	保護者(76名)
学習課題（分野）	講演会 「幼児期に大切な親子のきずな」 在宅取組 「わが家の約束」運動
運営者の願い	講師を招いての講演会を開くことで、保護者に子育て・家庭教育に関わる話をゆっくり聞いてほしい。



園行事の充実

保護者参加行事にプラスαの取組をすることで、園に対する保護者の信頼を深め、子どもの成長を感じてもらえる取組につながった。

学びを深め つなげる工夫

＊7月の保育参観後に、子育てサロン型で交流された話題をもとに「親学び」のための「講演会」の講師選びを検討した。
＊参観日と同一日にすることで、保護者が参加しやすいようにした。
＊乳児を連れて参加されたお母さんにも、講演会のお話が耳に入ってくるように、会場後方に一緒に参加できるコーナーを作った。

「わが家の約束」運動の取組

講演会の内容を親が振り返り、わが子に対しての関わり方の意識を高めるために「わが家の約束」を決め「チャレンジカード」に取り組んだ。

学 習 の 内 容

<取組内容>

- ① 保育参観日
- ② 講演会 講師：下嶋 美保子 氏（障害児一時支援施設勤務・元小中学校教諭）

○子どもの成長に必要なことは？

- ・土台となるのは、感性や情緒、存在の安心感や自尊感情。
- ・褒めて育てるということは土台がしっかりしていないとダメ。
- ・100点とったらほめられるなどということは、とんでもないこと。

○少年犯罪などから考えられること

- ・少年犯罪の親殺し、家族殺し事件が2006年にピークだった。母親に対する不満や当てつけの動機が多い。
- ・一生懸命育てたが、子どもに伝わっていなかったということ。土台がしっかりしていなかった。
- ・「親が無理やり・親が検閲・どうせ俺なんか」という獄中の手記から、自尊感情が育っていなかったことが伺える。

○土台づくりをしっかりするために

- ・「自分がダメだと思うか」という中学生に対しての質問の結果を比較すると、中国やアメリカより日本は、ダメだと思っている子が多い。
- ・自尊感情や自己肯定感を育てるには、目を見て「大好き・愛している」と言って抱きしめる。
- ・子どもは嫌なそぶりを見せても本心は嫌ではない。親や先生は、大事にしているよという気持ちを伝えていくことが必要。

○まとめ

- ・出版本『花ちゃんのみそ汁』から、自尊感情を培い母と子の絆を深めた話を紹介。
- ・花ちゃんとお母さんに負けないような絆を作してほしい。

③ 「わが家の約束」運動 『親子絆づくりチャレンジ!!』の在宅における取組

- ・父母の会教養委員長より、「親子の絆作りのために、親自身が約束を決めて一週間取り組んでみましょう。」と保護者に説明。
- ・期限は限定せず取組ができたところで、園に随時提出してもらい、その後、園長先生のコメント入りのメダルを保護者に贈った。



<取組の成果>

- ・子育てに関する講演において、家族愛について考えることができた。
- ・在宅の取組では、子どもの優しい言葉や行動を見逃さないことや、子どもへの思いやりの言葉かけが増える取組になった。
- ・参加できなかった保護者も、在宅の取組にすぐに意欲的に取り組むことができた。

<保護者の感想>

- ・今まで以上に意識して、子どもと向き合うことができました。
- ・穏やかな気持ちになり、落ち着いて子どもと向き合える時間が増えました。
- ・ぎゅーと抱きしめることに取り組みましたが、普段できていないことに気付きました。

●よく見るとお母さんのお名前、お名前がわかる方はお母さんの名前に書いてください。

<講演会の感想参観日> 日 期 月 日

★親子絆づくり、にチャレンジ!!

★わが家の約束★

月 日 / /

自己評価 (お母さん)

園長先生のコメント

●お母さん「話のじょうず」を褒められたこと
お母さん「子どもの優しい言葉や行動を見逃さないこと」を褒められたこと
子どもの約束「お母さん、大好きです」を褒められたこと

◎お母さん「話のじょうず」に感謝の気持ちを伝えること
◎お母さん「話のじょうず」に感謝の気持ちを伝えること
◎お母さん「話のじょうず」に感謝の気持ちを伝えること

